

F Aコン標準化進む

特性生かした利用検討

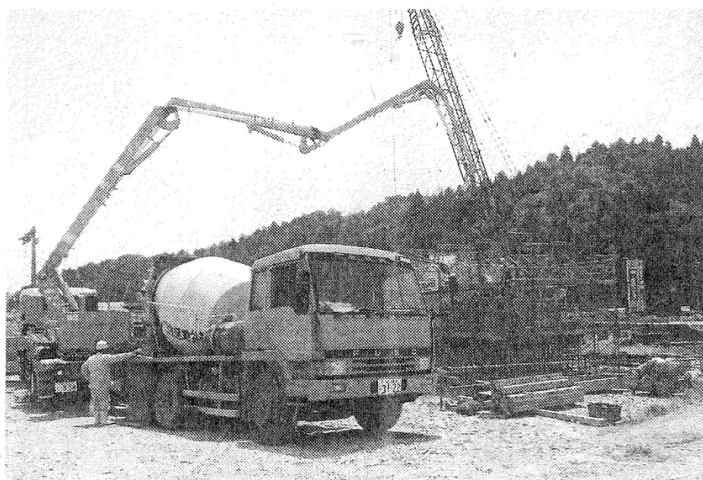
コンクリートでのフ
ライアッシュ(F A)
の有効活用が進んでい
る。大阪広域生コンク
リート協同組合は日本
建築学会近畿支部と共
同でF Aの活用を検討
している。同協組では

組合員三十数社がF A
コンクリートを標準化
して出荷できる体制を
整えている。建築学会
近畿支部の材料施工部
会とは同協組と関係バ
ワーテックから研究委
託を受けて、5月にコ
ンクリートを検討委員
会を新設、「適用範囲
の広い技術資料」の作
成を目指して、調査と
実験の2WGで検討を
進めている。

北陸ではF Aコンク
リートの実用化が進ん
でいる。福井宇部生コ
ンクリートは、F Aと
高炉セメントを使用し
たコンクリートを「福
井宇部F Bコン」の名
称で展開している。敦
賀火力発電所で発生す
るF Aを混和材とし
て、セメント分の20%
を置換し、セメント使
用量を減らしている。
これにより、水和熱を
抑制してひび割れ発生
リスクを抑制すること
ができる。

の製造にスラッジ水や
フライアッシュなどリ
サイクル材料を使用す
ることで表示が可能と
なる。すなわち、環境
ラベルを表示すること
は、生コン工場がリサ
イクル材の使用を公式
に表明することになる
ため、まず工事発注や
設計の段階から、そつ
したりサイクル材使用
の姿勢を理解して、積
極的に使用する措置が
講じられてこそ、幅広
い普及が可能になる。

FB コンの打設の様子



FB コンの打設の様子

F Bコンは北陸地区
の生コン会社として初
めてNETISに登録
(登録No.KK1100
0171-A)された。
7月には環境ラベル
(メビウスループマー
ク)を表示した出荷を
スタートした。

これまでに福井県発
注の九頭竜川流域下水
道事業施設のほか、国
土交通省発注工事で、
橋梁下部工やボックス
カルバートに採用され
るなど実績を重ねてい
る。

富山、石川、福井の
北陸3県では「北陸地
方におけるコンクリー
トの有効利用促進検討
委員会(鳥居和之委員
長、金沢大学教授)」が
F Aの地産地消とアル
カリ骨材反応抑制に有
効なF Aコンクリート
の標準化を目指して活
動している。石川、富
山ではF Aコンクリー
トの試験施工を実施。
高炉セメントコンク
リートとの比較で温度
ひび割れ抑制の点で優
位性のある材料である
ことを確認している。

石川県の志賀原発の防
潮堤工事に採用された
ほか、富山県では県内
全域で試験施工が計画
されている。